



信夫山から見る福島市街

私の親父は福島市近郊の出身であった。昭和 30 年代の大相撲に信夫山という力士がいた。同郷であるので当然ひいきにした。身体が小さかったので前頭上位が最高位置であった。もろ差しのことを力士言葉で“りゃんこ”と言うらしい。信夫山はもろ差しを得意としていたので“りゃんこの信夫”とあだ名されていたらしい。小さい身体で大きな力士に対抗するために色々な工夫を凝らしたみたいである。バランス感覚を養う目的で、山手線に乗ってつま先立ちのまま一周したというエピソードを持つので、舞の海のような小型力士とも違う生き方ようだ。

登った信夫山は除染作業中であり、まだ盛んに行われていた。

靴マーク 2 であったが危険度マークも 1 が付いていたのでそれなりの



放射線量メータ



除染作業中の信夫山

山かと思っていたが、“プラチナツアー”とも銘打たれていたらしい。シルバーよりも易しいという意味らしい。だから年寄りが多かった。女 11 人に男 3 人の構成で、男の中では私が一番若かったみたいだ。以前は山羊ひげであった F ジタさんもいた。今は山羊ひげは剃ってしまったが風貌は変わらない。もう一人の A べさんは福島大学卒ということで、82 歳。街を歩くときは年寄りらしく用心ぶかげに歩幅が小さい。しかし山に入ると長年の経験があるらしくそのようなことは感じさせない。女性の中にも昨年の仙水小屋の時に一緒だった人がいた。

ツアーリーダーは、植草ママと関根さんのバーサマ&おばさんコンビ。ドライバーは今回もジューエルの工藤さんで、山ビデオの新作を見せてくれた。植草ママは前日まで新島でツアーリーダーをやってきたということであったので相変わらずの活躍であるが、山はだいぶ衰えてきたようで、きつくなると関根さんに主役を譲っていた。花には相変わらずめっぽう強く客のバーサマダチと歩行を止めてやり合っていた。

まあ、前述のような理由で信夫山が含まれていたこのツアーに参加したわけである。

① 半田山

東北自動車道を国見で降りて程ないところにある里山である。30 分も歩けば頂上に着いてしまう。地元の人々の散歩コースといった感じである。我々の他に 10 人くらいのジイサンバアサンが遊びに来ていた。頂上近くにはショジョバカマが咲き乱れていて、これだけたくさんあると地味な花でもそれなりにきれいである。麓にはハートの形に見えるという池があるが、それほど有難味は感じないのはこっちが年取ったからか。



ショジョバカマ



ハートの池

② 信夫山

信夫山は、山というよりも福島市民の憩いのための公園というところである。

人が住むところの除染が優先されたので、信夫山の除染は後回しにされたので今が真っ盛りということであった。作業をしているお兄ちゃんが、我々が通るところに除染の土のほこりが飛ぶといけないので作業の手を休めて

“どうもすいません”と言う。

“君が悪いんじゃないよ”と声をかける。

登り口には“ウコン”とか“エイゲンジ”

などの多種類の桜が植えられており、いろいろなことがあっても心の豊かさに変化はないよう

である。



③ 霊山（りょうぜん）



霊山国士館の碑

今回のツアーの主役は霊山であったみたいだ。私はこの山が霊験あらたかな山であるということを知らなかったのであるからバチ当たりものである。玄武岩質の火山角礫岩によって構成されており、いたるところにむき出しになっている奇岩は信仰の山にあがめられることは自然の成り行きにさえ感じられる。伊達市を挙げての名所にしたい気も解る気がする。この地方名物の霊山漬けもまあいける。宿泊した紅彩館も感じの良い施設であった。



霊山の岩峰